

■ 都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金) 新規・継続地区一覧表  
(政令指定市域除く)

平成30年4月1日現在

No	市町村名	地区名	面積 (ha)	計画期間		計 画 の 概 要
				開始	終了	
1	横須賀市	汐入駅周辺地区	71.5	H30	H32	本地区は、地区内にある構成文化財が平成28年に日本遺産に認定されるなど市内でも観光の拠点となる地区だが、本市を訪れる観光客の回遊性の低さと滞在時間の短さが課題となっている。そこで、本地区を中核拠点とし、市内に点在する近代歴史遺産の整備により賑わい拠点の形成と交流人口の増加を促進し、ネットワーク化することで交流拠点を創出し、官民連携による地域経済の活性化を図ることで魅力あるまちづくりを推進する。
2	藤沢市	柄沢地区(3期)	49.6	H26	H30	本地区周辺は土地区画整理事業により都市基盤整備が完了し、藤沢市の都市化と相まって市街化が著しく進展した。この影響により本地区は、無秩序な市街地を形成しつつあった。このことから、土地区画整理事業により都市基盤の整備改善と併せて宅地の利用を増進するとともに、健全で快適な市街地形成を図る。
3	藤沢市	藤沢本町地区	94.8	H27	H32	本地区は、歴史文化資源「藤沢宿」のまち並み消失や交流施設の老朽化に伴い、住民の交流活動意欲が希薄化し、地域力が低下している。そこで、地域交流拠点の再整備や文化資産の活用により、コミュニティ活動の再活性化と賑わいの創出を図る。
4	藤沢市	藤沢駅周辺地区	20.5	H28	H32	本地区は、鉄道3線が結節するターミナルという立地を生かして、湘南・藤沢の玄関口及び湘南圏域の広域拠点の役割を担ってきたが、近年、街の求心力低下等により停滞傾向となっている。そこで、本地区の再整備・充実を図るべく、駅前でのにぎわい・交流の核の形成やユニバーサルデザイン化、歩行空間の高質化等を進めるとともに、街が育んできた文化、緑、ライフスタイル等の蓄積を生かしながら、今後コンパクトな都市構造を形成する上でも重要となる都心部再活性化を推進する。
5	小田原市	小田原駅周辺地区(2期)	197.8	H30	H32	本地区は、小田原駅という交通の要衝を擁し、社会経済や観光の拠点として栄えてきたが、近年は、中心市街地の空洞化、人口減少・少子高齢化の課題を抱えており、本市の中心を担う拠点として、持続可能な都市構造を目指した都市機能の再配置が必要となっている。そこで、小田原駅周辺を中心拠点区域とし、都市機能の充実、交通・道路施策等により複数の拠点との連携を図るとともに、市民活動の舞台となる都市空間を創出することで、より多くの人々が訪れ、回遊し、魅力の感じられるような、住みよく、暮らしやすいまちづくりを目標とする。
6	小田原市	箱根板橋・南町地区	97.4	H30	H32	本地区は、山縣有朋をはじめ明治の政財界の偉人の邸宅が多く残る地域であり、これらの貴重な歴史文化資源の保全とその活用を図っていく必要が生じている。こうした中、立地適正化計画に基づき都市機能誘導区域の利便性・活力の向上に向け、関係事業者、住民等と一体となって取り組むとともに、小田原城址をはじめとする時代々々の歴史的資源の保全活用を地域活力に転換し、歴史的資源を通じた賑わいと交流のコンパクトシティの形成を目指す。
7	小田原市	国府津駅周辺地区	25.1	H28	H32	本地区は多くの鉄道発着本数やバス運行本数を持つ集約型都市構造の骨格をなす拠点地区だが、利用者の多さに伴う交通渋滞・車両・歩行動線の交錯や利用者の利便性を考慮した機能の不足が課題となっていることから、地域生活基盤施設として駅広場・駐輪場などを整備し、拠点性の向上を図る。
8	小田原市	早川駅周辺地区	22	H29	H33	本地区は、JR早川駅周辺に位置し、全国でも駅から最も近い漁港[小田原漁港]を核に、水産に係る地域資源を生かした観光拠点として、本市のにぎわいと活力をけん引するエリアとなっており、立地適正化計画においても主要な拠点に位置づいているが人口減少等の課題がある。そのため、公共交通と地域性を活かして、小田原漁港交流促進施設整備を軸とした回遊・交流施策を展開し、持続可能で賑わいある観光拠点づくりを推進する。
9	茅ヶ崎市	茅ヶ崎駅周辺地区	191.3	H28	H32	少子化、高齢化の進行、人口減少等の変化に対応するため、必要な都市機能が集積し、徒歩、自転車、公共交通で移動しやすい基盤、みどり豊かで外出しやすくなる基盤へと改善を図り、環境にやさしく豊かな暮らしができる低炭素まちづくりを進める。
10	秦野市	秦野駅北口周辺地区(2期)	89.7	H27	H31	秦野盆地の中心部を流れる水無川流域について、「自然環境とのふれあい」と「良好な交通環境の創出」を二本柱とした「水無川風の道構想」を策定した。第1期計画で整備した路線への接続など、都市空間を生かした快適な歩行環境の整備を行うことで、「水無川風の道構想」の推進を図る。
11	大和市	中央林間地区	28.1	H29	H33	中央林間駅周辺の鉄道事業者所有施設や公的不動産の有効活用を図り、地域に不足している多世代が交流できる場や子育て支援の場を整備する。また、車ではなく人が中心となる社会への対応を図るため、駅前ロータリーなどの交通結節点を見直し、新たな駅前広場の整備を進める。
12	伊勢原市	伊勢原・成瀬他地区	2470	H26	H30	東日本大震災や近年の全国的な激しい風水害等を踏まえ、本市は、地域防災計画を見直し、災害に強いまちづくりの強化の推進を位置づけたところである。そこで伊勢原、成瀬、比々多、大田地区を中心に防災基盤の強化を図り、市民とともに災害に強い安全なまちづくりをめざす。
13	海老名市	海老名駅周辺地区	63.3	H29	H33	本地区では、海老名駅への車両集中による道路混雑が発生しており、公共交通機関の運行等に支障を来している。海老名駅改修事業に合わせ、新たな駅前広場の整備による交通結節機能の強化と、安心・安全・快適な歩行者ネットワークの構築等を図り、賑わいと活力のある、そして誰もが活動しやすい魅力的な都市を目指す。
14	座間市	小田急相模原駅周辺地区	5.3	H30	H33	本地区は、相模原市南部の小田急相模原駅に接し、その利便性により古くから市街地形成が進み市内でも人口密度が高い地区である一方で、急激な市街地のスプロール化と駅前地区の都市・交通環境の悪化が課題となっている。そこで、地区のネットワークを向上させるとともに、商業、住宅、公共公益施設の集積を測り地域拠点にふさわしい駅前空間の形成を目指す。
15	大磯町	大磯駅周辺地区	15.4	H30	H34	本地区は、東海道の松並木や歴史的建造物などの地域資源が残る町の玄関口であるが、相模湾と大磯丘陵に挟まれた狭小な地形にて、古くから宿場町として発展してきたため、交通基盤の整備が遅れている。そこで、新たな観光拠点などと一体的に駅前広場や周辺道路を整備し地域住民及び来訪者の安全・安心を確保するとともに、魅力ある空間を形成することで、交流人口の増加と定住人口の安定化を図る。

■ 都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金) 完了地区一覧表  
(政令指定市域除く)

平成30年4月1日現在

No	市町村名	地区名	面積 (ha)	計画期間		計画の概要
				開始	終了	
1	横須賀市	大津町地区	87	H24	H27	町内会等の地域団体によりさまざまなコミュニティ活動が行われているが、その拠点施設の充実が課題となっている。そこで、地域交流センター建設事業の実施により地域力の強化と地域の活性化を図る。
2	横須賀市	横須賀中央駅周辺地区	26	H26	H27	本地区は、本市の都市拠点であり、都市的な魅力にあふれた賑わいのある活動的な都市空間の形成が求められている。そこで、再開発事業を促進し、商業・業務施設及び住宅と共に医療施設を誘導し拠点性の向上を図る。
3	平塚市	平塚駅西口・見附台周辺地区	66	H16	H20	平塚駅西口において駐輪場及び交通広場等を整備し交通結節機能の強化を図るとともに、駅北口のバリアフリー化、まちかど広場の創出により中心市街地の賑わいの再生を図る。
4	鎌倉市	鎌倉駅周辺地区	720	H17	H21	交通環境の改善、来訪者をもてなす環境整備などにより、古都鎌倉の玄関口にふさわしい質の高い駅周辺の都市空間を改善し、来訪者と市民との調和のとれたまちの再生を目指す。
5	鎌倉市	大船駅周辺地区	220	H18	H22	大船駅周辺の道路・広場・ペDESTリアンデッキ・駐輪場などの整備により、にぎわいのあるまちとするとともに、安全・安心・快適さを備えた魅力ある都市環境を創造する。
6	鎌倉市	大船駅周辺地区(2期)	220	H23	H25	大船駅周辺地区は2期目となるが、財政状況の悪化等により未整備となった事業があり、特に歩行者環境の改善が課題となっている。そこで、大船駅東口エレベーター等整備事業の実施により、バリアフリー化と利便性の向上を図る。
7	鎌倉市	鎌倉駅周辺地区(2期)	720	H22	H26	鎌倉駅周辺地区は2期目となるが、未整備箇所が残っているため歩行者環境の改善が課題となっている。小町通りの電線類の地中化事業の実施により観光客の満足度の向上を図る。
8	藤沢市	柄沢地区	64.4	H16	H20	本地区の周辺では、市街化が著しい状況である。この影響により本地区では、ミニ開発等による無秩序な市街地を形成しつつある。そこで、本事業において、土地区画整理事業の実施により、健全で快適な市街地の形成を図る。
9	藤沢市	善行六会西部地区	477	H16	H20	当地区は市域中心部に位置しながら、都市計画道路の多くが未整備でネットワークとして機能していない状況である。このことから、道路ネットワークの整備が急務であり、また、道路を整備することで災害に強いまちづくりの確立を目指す。
10	藤沢市	湘南台西地区	560	H17	H21	「子育て支援拠点の形成、地区内の安心、快適環境の整備」と「交通環境の改善と公共交通の充実」及び「安心・快適で良好な居住環境の整備」という課題について、道路事業、公園事業、土地区画整理事業等を総合的に実施することにより、課題について目標の達成を図る。
11	藤沢市	湘南ライフタウン周辺地区	458	H17	H21	当地区は、西部区画整理事業として整備され、本格入居から約30年経過した住宅地であるが、良好な環境づくりと健康づくりのための施設の整備が課題となっている。そこで、道路や公園整備、保健医療センターの機能充実、避難所である小・中学校屋内運動場の耐震補強の実施により、住み続けられうるおいあるまちづくりを図る。
12	藤沢市	御所見地区	440	H18	H22	道路・広場・防災情報板・地域交流センターなどの整備により、誰もが安全・安心して暮らされ続ける生活環境づくりを行なう。
13	藤沢市	藤沢地区	350	H19	H23	藤沢駅北口周辺においては未定利用地化しており、周辺の陳腐化が著しく、また、地区内施設の未耐震化や災害時のオープンスペースの確保等が課題となっている。そこで、新たに道路整備を行い既存の観光資源を活かし、中心市街地の活性化を図る。また、避難施設の耐震化、公園整備等を行い防災機能の向上を図る。
14	藤沢市	辻堂駅周辺地区	127	H19	H23	平成16年第4次都市再生緊急整備地域指定を受け、JR東海道本線辻堂駅北側の大規模工場跡地の土地利用転換にあわせ、駅と駅前広場等の交通結節点機能強化を図る。

■ 都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金) 完了地区一覧表  
(政令指定市域除く)

2/4

平成30年4月1日現在

No	市町村名	地区名	面積 (ha)	計画期間		計画の概要
				開始	終了	
15	藤沢市	柄沢地区(2期)	50	H21	H25	本地区の周辺では、市街化が著しい状況である。この影響により本地区では、ミニ開発等による無秩序な市街地を形成しつつある。そこで、本事業において、土地区画整理事業の実施により、健全で快適な市街地の形成を図る。
16	藤沢市	藤沢北部地区	760	H23	H27	基盤整備の遅れから、防災性も脆弱な市街地が形成され、広域避難場所までのアクセス不良や生活道路への通過交通の侵入など、生活環境の悪化が進んでいる。このような居住環境を改善するため、土地区画整理事業により、狭あい道路の改善などの都市基盤整備を進め、良好な街並みへの誘導を行い快適で良好な居住環境を創出する。
17	藤沢市	藤沢地区(2期)	70	H24	H27	藤沢駅北口周辺は市街化が形成されている地区であるが、未低利用地化の状況があり、また、周辺の商業の陳腐化が著しい状況が課題となっている。そこで、新たな道路整備を行い周辺土地の活性化を図り、併せて地区の防災性の向上も図る。
18	小田原市	小田原駅周辺地区	224	H16	H20	中心市街地の空洞化が課題となっている中で、「小田原らしさの再生と創造により、人々の多様で活発な交流を促進」を目標に、小田原城跡などの歴史・文化施設を生かした交流拠点や、道路整備を行い、快適な生活環境を創出する。
19	小田原市	国府津駅周辺地区	25	H16	H20	大規模小売店舗の進出により空洞化が顕著になっている中、地区の資産を今後のまちづくりにどう生かしていくかが課題となっている。そこで、国府津駅を中心とした生活拠点としての機能を強化し、景観や自然など、資源を活かし、安心・快適なまちづくりを創る。
20	小田原市	小田原駅周辺地区(1期)	147.7	H27	H29	本地区は、小田原駅を中心に、交通の結節点であるとともに、駅周辺の中心市街地が県西部を商圏とする一大商業地であったが、近年、郊外型大型商業施設が次々に出店したことなどに伴い、本市の中心市街地の商圏は徐々に縮小し、中心市街地の空洞化が生じている。そこで、立地適正化計画に基づき、都市再構築戦略事業を活用し、中心市街地の都市機能を更新し、適正な配置を行うことで、持続可能な都市構造を実現し、まちなか居住の促進や本箇所を拠点とした市内のネットワーク形成を図る。
21	茅ヶ崎市	茅ヶ崎中央西部地区	921	H19	H23	交通利便性・防災性の向上を骨格的道路網の整備や道路改良、避難所の整備など総合的まちづくりを進め、安全・安心・快適に暮らせる生活環境の形成を図る。
22	茅ヶ崎市	香川駅周辺地区	184	H21	H25	本地区は、急激な都市化に追いつかず、特に道路・交通に対する基盤整備が課題となっている。そこで、本事業において、道路拡幅等を実施することにより、安全・快適で魅力あふれる市街地の再生を図る。
23	三浦市	三浦海岸駅周辺地区	237	H17	H21	三浦海岸周辺地区は、横浜・東京方面への利便性から通勤者(定住する人口)も多く、さらに、観光拠点としての様々な可能性(交流する人口)がある地区である。しかしながら、道路などの基盤整備水準が低いことから、住民の交通安全面等での問題や来遊客が回遊しやすい観光拠点(小松ヶ池公園等)へのアクセスが未成熟であることが問題となっている。そこで、道路整備や公園施設整備をはじめとした事業の実施により、安全で快適なにぎわいのあるまちづくりを図る。
24	秦野市	渋沢駅前落合線沿道地区	186.8	H16	H20	小田急線渋沢駅から北へ伸びる都市計画道路の整備を推進し、交通ネットワーク、未利用地への企業誘致や地域の暮らしの充実を図る。
25	秦野市	秦野駅北口周辺地区	101.4	H16	H20	交通バリアフリー法に基づく歩道の整備、水無川緑地の緑道整備等景観に配慮した基盤整備やイベント等の開催により、まちの活性化を図る。
26	厚木市	ぼうさいの丘公園周辺地区	495	H16	H20	災害拠点施設となるぼうさいの丘公園へ、市民が安全かつ迅速に避難できる避難路及び、物資等の輸送路の整備により、交通や情報の連携を図るネットワークの形成を目指す。
27	厚木市	本厚木駅周辺地区	245	H19	H23	本厚木駅の周辺のバリアフリー化無電柱化を進め快適な歩行空間を整備し賑わいを創出する。
28	厚木市	下古沢・上古沢周辺地区	650	H19	H23	自然の豊かさを利用した緑地整備とアクセス道路の整備及び快適な住環境と住民生活の安全性と利便性の向上を図る。

■ 都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金) 完了地区一覧表  
(政令指定市域除く)

No	市町村名	地区名	面積 (ha)	計画期間 開始 終了		計画の概要
29	厚木市	荻野川周辺地区	626	H20	H24	丹沢山麓や河川等の豊かな自然環境に恵まれている地区であり、健康・交流のみちづくり等の実施により、自然共生による水やみどりを生かしたまちづくりを図る。
30	厚木市	本厚木駅周辺地区	160	H24	H28	近年は流通業界の再編化、郊外や他区域の商業施設の進出により、大型の店舗の撤退が相次いでおり、市内における中心市街地の商業売上の割合は年々減少しており停滞化が大きな課題となっている。そこで、既存建築物活用事業等の実施により、本厚木駅を中心とする中心市街地の活性化を図る。
31	大和市	鶴間駅周辺地区	39	H16	H20	鶴間駅周辺地区は、公共施設、福祉施設等集積している地区であるが、駅周辺の歩行空間がバリアフリー化されていないことが課題となっている。そこで、道路のバリアフリー化等を行い、誰もが安全安心に訪れ、暮らせる福祉のまちを推進する。
32	大和市	下鶴間山谷地区	6.5	H21	H23	本地区は、市街化区域であるにもかかわらず開発が遅れたため、土地利用の秩序と公共施設の改善が課題である。土地区画整理事業等を行うことで、「緑と都市が共生するうるおいのあるまち」の実現を図る。
33	大和市	大和駅周辺地区	25	H26	H29	郊外の大規模事業所の撤退による跡地への大型商業施設出店等により、本市の中心市街地である大和駅周辺地区への来街者が減少し、本地区の魅力が低下している。そこで、地区外の住民が訪れやすく、暮らしやすさを実感できるような集約型都市構造を実現するべく、地区内で行う第一種市街地再開発事業により地域の核となる文化施設や子育て施設等を複合化し、点在していた各施設を駅至近に集約させることで中心市街地の公共・公益サービスの機能維持・強化及び、地域交流の拡大を図ることで、活力ある街として再構築する。
34	伊勢原市	伊勢原駅周辺地区	70	H16	H20	伊勢原駅周辺で計画されている都市計画道路の整備推進と伊勢原駅南北自由通路を整備することにより、交通環境の改善とまちの活性化を図る。
35	伊勢原市	成瀬地区	290	H18	H22	道路・情報板・防災放送施設の整備や土地区画整理事業などにより、地区防災機能の強化を図るとともに、安心して心のふれあう街づくりを目指す。
36	伊勢原市	伊勢原駅周辺地区(2期)	350	H21	H25	本地区は、本市の中心拠点であり第1期計画を実施した地区である。引き続き基盤施設の着実な整備推進と、事業の効果を持続・継続するために生活環境改善や安全安心まちづくりが必要となっている。そこで、高質空間形成事業や地域防災施設整備事業などにより、交通環境の改善と安全・安心なまちづくりの推進を図る。
37	海老名市	中央地区	234	H17	H21	本地区は、相模川及び鉄道網により交通が寸断され、その周辺部において慢性的な交通渋滞が発生しており、大規模な発生交通及び駅周辺の慢性的な交通渋滞に対応する新たな道路交通網の整備が課題となっている。そこで中新田鍛冶返線整備事業等の実施により、さがみ縦貫道路ICへのアクセス性を高め、交通渋滞の解消を図るとともに、防災機能の向上、安全な歩行空間確保により安心、安全な都市環境を形成する。
38	海老名市	海老名市東部丘陵地区	727	H18	H22	本地区は、市街化区域の宅地化が進んでおり、地域防災の充実や道路交通網の整備による生活環境の向上が課題となっている。そこで道路(道路修繕、街なみ環境整備事業)・下水道の整備事業や情報版・地域防災施設(海老名小学校体育館)整備事業等の実施により、生活環境の改善や地域の防災体制を強化し、安心・安全でうるおいのある住宅市街地の形成を行なう。
39	海老名市	本郷周辺地区	257	H18	H22	本地区は、市街化区域と市街化調整区域にまたがっており、都市近郊農業として農地保全を図るとともに、地域防災の充実や道路交通網の整備が課題となっている。そこで(仮称)南伸道路整備事業・下水道整備事業等の実施により、交通アクセスの利便性を高めるとともに、地域の防災体制を強化し、安全と活力をもつまちを創造する。
40	海老名市	相模川沿川地区	547	H20	H26	本地区は、「さがみ縦貫道路海老名北インターチェンジ」の開通に伴う交通量の増加に対応した道路網の整備や地域防災の充実による生活環境の向上が課題となっている。そこであゆみ橋整備事業等の実施により、交通アクセス、交通安全、歩行者の快適性の向上を図る。
41	座間市	座間南東部地区	626.3	H19	H23	当該地区は、開発等進められ、住宅、工業地区として、人口が増えているが、交通利便性の向上が課題となっている。そこで、道路改良、歩道改善工事の実施により、安全性、快適性の向上等、地域交通の確保を図る。

■ 都市再生整備計画事業(旧まちづくり交付金) 完了地区一覧表  
(政令指定市域除く)

4/4

平成30年4月1日現在

No	市町村名	地区名	面積 (ha)	計画期間		計画の概要
				開始	終了	
42	座間市	座間北部地区	390.7	H19	H23	当該地区は、本市内で最も人口が集中している地区であるが、交通利便性の向上が課題となっている。そこで、道路改良、歩道改善工事の実施により、安全性、快適性の向上等、地域交通の確保を図る。
43	座間市	座間地区	1,758	H24	H28	本地区は道路環境や防災施設の充実が課題となっている。第1期計画の都市再生整備計画事業の実施により、成果があったが、今後も、歩道改善、耐震性貯水槽の整備の実施により、道路環境、防災施設の充実を図る。
44	南足柄市	大雄山駅周辺地区	687	H16	H20	道路網整備を進め、大型車の中心市街地への流入を削減し、便利で快適な交通体系の整備及び快適な居住環境づくりを図る。
45	南足柄市	天狗伝説の里地区	290	H20	H22	大雄山最乗寺周辺地区は観光の中心であるが、近年観光客数の減少が続いているため、周辺観光施設の整備やネットワークのための道路整備を行い、周辺施設との回遊性を高め観光入れ込み客数の増加を図る。
46	南足柄市	大雄山駅周辺地区(2期)	990	H21	H25	南足柄市は、大規模地震の発生が危惧されているため、災害時対策として橋梁の耐震化を図る。また大雄山駅前の、歩行者の安全性と快適性等の向上を図るため、道路の整備を実施するとともに、地域の商店街の振興を図る。
47	綾瀬市	綾瀬中央地区	171	H20	H24	市内に鉄道駅が無く分散した都市形成となっているため、道路等の交通環境や公園緑地等の都市基盤の整備により、都市としての中心性の確保や快適な住環境と高い利便性、機能性を備えた都市空間の創造を図り、魅力あるまちづくりを推進する。
48	寒川町	寒川駅周辺地区	69.5	H16	H20	町の玄関口としての役割を担う地区であるが、通過交通の流入、駅前広場の不足、土地利用の混在等が課題となっている。そこで、寒川駅北口地区土地区画整理事業の実施により道路、公園等の公共施設の整備改善や土地利用の適正化を図り、安全・快適で魅力あふれる中心市街地の再生を図る。
49	寒川町	寒川駅周辺地区(2期)	69.5	H21	H25	町の玄関口としての役割を担う地区であるが、通過交通の流入、駅前広場の不足、土地利用の混在等が課題となっている。そこで、寒川駅北口地区土地区画整理事業の実施により道路、公園等の公共施設の整備改善や土地利用の適正化を図り、安全・快適で魅力あふれる中心市街地の再生を図る。
50	大磯町	大磯東部地区	539	H18	H20	道路・公園・観光案内板・防災情報通信施設・旧島崎藤村邸広場などの整備により、自然と歴史・文化を受け継ぐ住む人にも訪れる人にも魅力的なまちづくりを行なう。
51	大磯町	大磯西部地区	755	H19	H23	国府(大磯西部地区)に残る自然や伝統、文化の資源や地域の特性を生かし、魅力に富む交流空間の形成を図るとともに、子どもから高齢者まで安全に安心して暮らせる住環境の向上を図る。
52	山北町	山北地区	980	H18	H22	山北地区では、次のことが大きな課題となっている。 ○定住人口確保対策 ○利便性の高い生活関連の基盤整備 ○地域の防災力強化 ○商店街の「にぎわい」の再生 ○山北駅前の魅力づくり ○河村城址歴史公園や洒水の滝周辺の整備 ○子育て支援の体制づくり ○教育環境の充実 ○安全・安心のまちづくりの推進 ○地域の活力を創る商工業振興 ○地域の資源を生かした観光振興によって、人口の減少率の抑制、災害時の情報収集能力の向上、観光入込客数の増という3つの指標をまちづくり交付金事業の実施により改善させ、町の行政課題を解決していく。
53	箱根町	箱根閑所地区	25.1	H17	H21	史跡「箱根閑所」復元整備と一体的に、旧宿場町という歴史的地区にふさわしい景観形成を図り、地区全体で魅力あるまちづくりを推進し、にぎわいのある観光地の実現を目指す。
54	湯河原町	湯河原駅周辺地区	15.5	H25	H29	本町は観光立町であり、古来より“こごめの湯”又は“小梅の湯”として知られ、湯治場として栄えてきた。しかし、観光客数は減少傾向にある。そこで、湯河原駅周辺地区では、温泉観光地にふさわしい湯けむりの感じられる空間の創出や新たな旅行形態の創出により産業観光を支援し、観光客の増加を目指す。